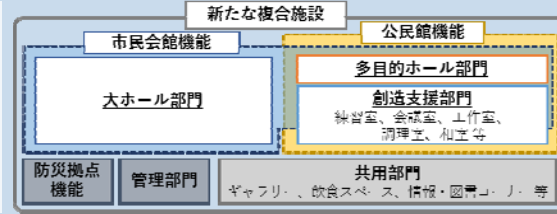


3 機能構成と施設整備に関する考え方

機能イメージ

各部門に設置する諸室は、さまざまな機能に対して柔軟な対応ができる「多機能」な設えとします。例えば多目的ホールを会議室として利用したり、公演がないときには大ホールの楽屋を練習室として利用できるよう検討します。そして、諸室や空間を「重ね使い」することで、ランニングコストや規模を抑えたコンパクトな計画を目指します。



大ホール部門	市民の鑑賞の場、発表の場。クラシックコンサート、演劇、映画上映にも対応し、平土間空間になる多機能ホール。客席規模は800～1,000席と設定。災害時の防災拠点としても機能する。	
多目的ホール部門	公演リハーサル、市民の日常的な練習の場。その他小規模の発表会、大人数での会議等、さまざまな用途で利用可能な平土間形式ホール。	
創造支援部門	練習室	日常的な練習活動の場。音の出る活動に対応するため防音・遮音性能を備える。
	会議室	会議室単独での諸室は持たず、他の諸室を「重ね使い」する。
	工作室	絵画、彫刻、陶芸等の美術活動等、多様な活動に対応できるよう給排水設備を備える。
	調理室	料理教室や食育活動、災害時に対応できるよう、調理設備、給排水・給湯設備等を備える。
	和室	茶道、華道、書道等の活動の他、休憩室や災害時の宿泊場所としても機能する。
共用部門	催物が行われていなくても気軽に立ち寄れて、市民にとっての居場所となる場。展示可能なギャラリースペース、打合せスペース、飲食エリア、情報・図書コーナー等を設置する。	
管理部門	施設全体の維持管理、諸室貸出の管理を一体的に行う管理事務室を設置する。	

上記部門他、廊下・通路やトイレ、設備スペース、機械室関係を含めて、施設全体の延床面積は概ね6,000～7,000㎡と想定しています。

再整備の手法

市民に親しまれる施設の実現にむけて、利用促進の仕掛けづくりや賑わいの創出とともに、財政負担の軽減を図るため、「官民連携型」事業手法を含め、民間事業者の創意工夫や資金等の活用を念頭にした事業手法について検討します。

敷地環境

新たな複合施設が果たすべき役割や機能を実現化できる場所として、3ヶ所の公共用地（現市民会館・中央公民館敷地、現茂原セントラルモール敷地、駅前区画整理事業敷地）を抽出しました。各候補地とも、さまざまな観点からの検討事項を抱えているため、抽出した候補地以外の用地の抽出も含めて、さらに詳細な検討を進めます。

概算建設費

新たな複合施設の概算建設費は、現時点では約50～60億円が見込まれます。建設工事費については、今後の整備内容検討において市場の動向を注視しつつ、より具体的な試算を行います。

みんなで考える新市民会館シンポジウム （仮称）茂原市民会館建設基本構想 概要案



平成30年 1月21日
茂原市

4 管理運営に関する考え方

基本理念で掲げた新たな複合施設の実現のために、単に施設を貸し出すだけでなく、様々な事業企画の提供や市民の文化活動・参加を推進していくよう働きかける必要があります。また、施設の様々な使い方に柔軟に対応することも求められます。そのために、施設の円滑な利用を可能とする条例規則や一体的な運営を行うための組織体制を検討します。管理運営の詳細については、「管理運営計画（平成31年度以降に作成予定）」の中で検討します。

5 事業スケジュール

本構想策定時点では、平成29年度に基本構想策定、平成30年度に基本計画策定、整備手法検討を予定しています。前述の建設候補地によってスケジュールは異なりますが、最短は現市民会館・中央公民館敷地で平成35年度の完成を想定しています。

※本内容は現段階での案であり、今後変更する場合があります。